

社会科学習指導案（地理的分野）

日 時 令和元年5月17日（金）第1校時
対 象 2 年 3 組 3 6 名
指導者 教 諭 宮ヶ谷 雄二

1 単 元 「世界から見た日本の姿」

2 単元の考察

本単元は、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の四つの項目について、分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現することを主なねらいとしている。日本の自然環境の特色は、山がちで平野部が少なく、川は短く急流であり、自然災害が多く防災対策に努めてきたことが挙げられる。また日本の人口は、世界的に見れば人口の多い国であるが、総人口が減少に転じており少子高齢化も進展している。産業の特色は、日本全体で見ると先進工業国と捉えられており、国内を大きく区分して見ると、自然及び社会的条件によって産業の地域的分業が発展していることがわかる。しかし、資源のほとんどを輸入に頼る状況やエネルギー政策の転換などの現状がある。さらに、グローバル化の進展に伴い、国内外では様々な形態の交通網や情報通信網の整備が進んでいる。このように、我が国は解決が求められている課題を多く抱え、その方策を見いだしていくことが喫緊の課題となっている。

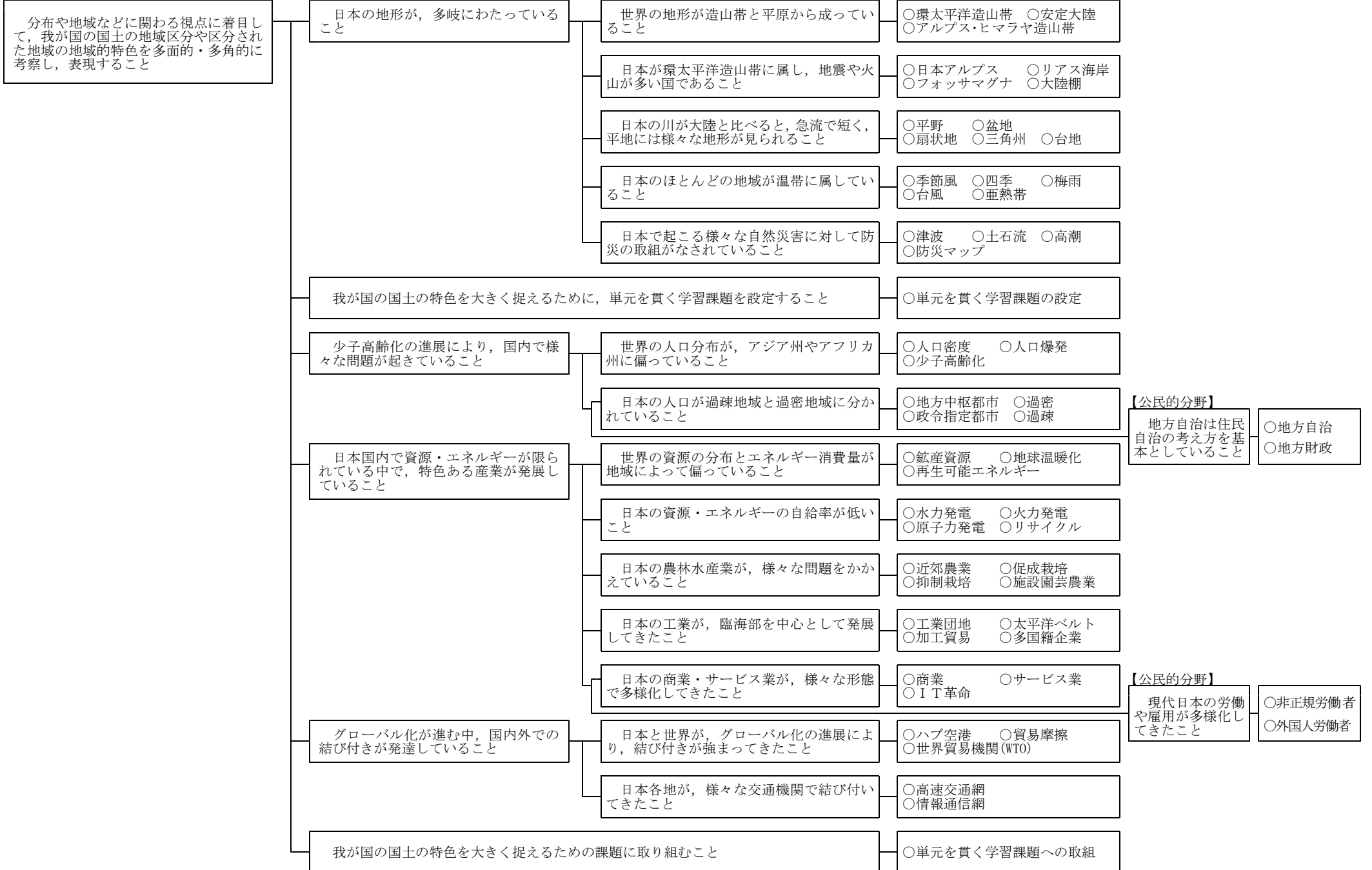
生徒は、アンケートによれば、地理的分野に関心をもつ生徒は30名(89%)であり、特に世界や日本の地域的特色について調べること21名(58%)や、世界の国名を覚えること16名(44%)に興味・関心をもっている。しかし、地理的事象を暗記するものとしてとらえ、苦手意識をもっている生徒や、それらに対して「自分事」として関心をもていない生徒も見られた。また、複数の資料を比較したり関連付けたりすることに課題があることも分かった。そこで、将来につながる現代的な諸課題を扱い、社会科の各分野を横断する授業を構成したい。本単元で学習する我が国の国土に対する認識を深めることは、これ以降に学習する日本の諸地域の学習や歴史的・公民的分野での学習にもつながると考える。

指導に当たっては、我が国の国土の特色を大きく捉えさせるために、「現在の国土の特色から、日本の未来図を明らかにしよう」という大単元全体を貫く学習課題を設定する。特に、人口減少に伴う少子高齢化や都市圏への一極集中が、経済の規模や産業構造の変化などに影響を与え、国民生活の持続可能性が問われていることを主に取り上げる。そして、各分野を横断した単元構成にし、各中単元において、より現実味を帯びた社会問題を基に学習課題を設定していく。さらに、生徒の思考を可視化させることで、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業を行いたい。また、自己の主張に根拠をもたせるためにどのような資料が必要なのか、主体的に考えさせていきたい。これらの活動を通して、我が国の国土の特色を多面的・多角的に考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、新たな時代を豊かに生きる態度を養っていくことにした。

3 単元の学習内容の構造化

概念的な知識・複雑な技能

事実に基づく知識・基本的な技能



4 単元の目標

- 日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色について、複数の資料を比較したり関連付けたりして、基本的な考え方や概念等に関する知識を身に付けさせる。(知識及び技能)
- 日本の自然環境、人口、資源・エネルギーと産業などについて、分布や地域などに関わる視点に着目して、日本の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(思考力、判断力、表現力等)
- 日常生活の中から、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色について、課題を自ら発見し、社会に対してよりよい考えをもたせる。(学びに向かう力、人間性等)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全16時間) — 評価(授業中) — 評価(授業後)

主な評価場面と学習内容 (事実的な知識)	時間	評価 規 準			主な言語活動の 具体的場面
		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
世界の地形 世界の地形の特色について理解する場面 ○環太平洋造山帯 ○安定大陸 ○アルプス・ヒマラヤ造山帯	1	世界の地形の特色について、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】			《読み取り・解釈》 世界地図から、造山帯の位置について読み取り、その特色について解釈する場面
日本の山地と海岸 日本の地形の特色について理解する場面 ○日本アルプス ○リアス海岸 ○フォッサマグナ ○大陸棚	1	日本の地形の特色について、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】			《読み取り・解釈》 日本地図から、山地の位置について読み取り、その特色について解釈する場面
日本の川と平地 日本の川や平地の特色について理解する場面 ○平野地 ○盆地 ○台地 ○扇状地 ○三角州 ○台地	1	日本の地形の特色について、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】			《読み取り・解釈》 日本地図から、川・平野の位置について読み取り、その特色について解釈する場面
世界から見た日本の気候 太平洋側と日本海側の気候のちがいで考察する場面 ○季節風 ○四季 ○梅雨 ○台風 ○亜熱帯	1	日本の気候の特色について、資料から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	日本の気候の特色について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		《読み取り・解釈》 雨温図を基にして、太平洋側と日本海側の気候のちがいで読み取り、その特色について解釈する場面
自然災害と防災の取り組み 日本で起こる災害に対する対策について考察する場面 ○津波 ○土石流 ○高潮 ○防災マップ	1	日本で起こる様々な自然災害やその対策について、様々な資料から読み取り、その知識を身に付けている。 【ノート】	日本で起こる様々な自然災害やその対策について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		《説明》 資料を基にして、日本で起こる様々な災害に対する対策について説明する場面
単元を貫く学習課題の設定 我が国の国土の特色を大きく捉える場面 ○単元全体を貫く学習課題	1		我が国の国土の特色について様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	我が国の国土の特色に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】	《論述》 我が国の国土の特色について、様々な資料を基に、自己の主張として論述する場面
世界と日本の人口の特色 世界と日本の人口の特色について理解する場面 ○人口密度 ○人口爆発 ○少子高齢化	1	世界と日本の人口の特色について、様々な資料から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	世界と日本の人口の特色について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】		《読み取り・解釈》 資料を基にして、世界と日本の人口について読み取り、その特色について解釈する場面
少子高齢化と過疎・過密問題 少子高齢化の原因について、他者とともに考察する場面 ○地方中核都市 ○過密 ○政令指定都市 ○過疎	本時	日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料から、「根拠」「論拠」を基にまとめ、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料を基に、地域の共通点や差違などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 【ワークシート】		《説明》 資料を基にして、日本の人口減少の原因について考察し、説明する場面
世界の資源・エネルギーと産業 世界の資源・エネルギーの分布について考察する場面 ○鉱産資源 ○地球温暖化 ○再生可能エネルギー	1	世界の資源・エネルギーの特色について、地図から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ノート】			《読み取り・解釈》 世界の資源の分布図を基にして、世界の資源・エネルギーの特色について読み取り、その特色について解釈する場面
日本の資源・エネルギーと環境問題 日本の資源・エネルギーの自給率について考察する場面 ○水力発電 ○火力発電 ○原子力発電 ○リサイクル	1		日本の資源・エネルギーの特色について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	日本の資源・エネルギーの特色に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】	《論述》 日本の発電所の分布図や発電量構成を基にして、日本の資源・エネルギーについての様々な問題について論述する場面
日本の農林水産業 日本の農林水産業の特色について考察する場面 ○近郊農業 ○促成栽培 ○抑制栽培 ○施設園芸農業	1	日本の農林水産業の特色について、地図から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	日本の農林水産業の特色について、様々な資料を基に考察し適切に表現している。 【ノート】		《説明》 日本の農林水産業についての資料を基にして、日本の農林水産業についての様々な問題について説明する場面
日本の工業 日本の工業の特色について理解する場面 ○工業団地 ○太平洋ベルト ○加工貿易 ○多国籍企業	1	日本の工業の特色について、図表から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	日本の工業の特色について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		《説明》 日本の工業についての資料を基にして、日本の工業についての様々な問題について説明する場面
日本の商業・サービス業 日本の商業・サービス業の変化について考察する場面 ○商業 ○サービス業 ○IT革命	1		日本の商業・サービス業の特色について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	日本の商業・サービス業の特色に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】	《論述》 日本の商業・サービス業についての資料を基にして、日本の商業・サービス業についての様々な問題について論述する場面
グローバル化が進む世界 世界と日本の結び付きについて理解する場面 ○ハブ空港 ○貿易摩擦 ○世界貿易機関(WTO)	1	世界と日本の結び付きについて、地図から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】			《説明》 様々な資料を基にして、世界と日本の結び付きについて説明する場面
日本各地を結ぶ交通・通信 日本国内の高速交通網について理解する場面 ○高速通信網 ○情報通信網	1	日本の交通網について、地図から読み取ったり、図表などにまとめたりして、その知識を身に付けている。 【ワークシート】	日本の交通網の整備について、様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		《説明》 様々な資料を基にして、日本国内の交通網の特色について説明する場面
単元を貫く学習課題への取組 我が国の国土の特色を大きく捉える単元を貫く学習課題に取り組み、表現する場面 ○単元を貫く学習課題への取組	1		我が国の国土の特色について様々な資料を基に考察し、適切に表現している。 【ワークシート】	我が国の国土の特色に関心をもち、意欲的に追究しようとしている。 【観察】	《論述》 我が国の国土の特色について、様々な資料を基に、自己の主張として論述する場面
全16時間における各評価観点の配当時間		7+⑤	9+②	④	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す。

6 本時の実際（8 / 16）

(1) 主題 「少子高齢化と過疎・過密問題」

(2) 本時の目標

ア 日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料から「根拠」「論拠」を基にまとめ、その知識を身に付けさせる。（知識及び技能）

イ 日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料を基に、地域の共通点や差違などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現させる。（思考力、判断力、表現力等）

(3) 主題の考察

2016年に発表された国勢調査によると、我が国の総人口は1億2709万人。「人口減少」と言われて久しいが、1920年の調査開始以来初めて日本の総人口が減少に転じた、大きな節目であった。また、大阪府も68年ぶりに増加から減少に転じるなど、多くの自治体で人口が減少している。さらに、人口減少と並行して急速な高齢化が進んでいる。日本は既に15歳未満の人口割合は世界で最も低く、65歳以上の割合は世界で最も高い水準にあるが、東京オリンピック・パラリンピックから5年後には、日本は5人に1人を75歳以上の後期高齢者が占める超高齢社会に突入する。日本社会は、世界で誰も経験したことの無いほどの凄まじい人口減少と高齢化、それに伴う財政難を経験することになるのである。実際に、これらの課題にいち早く直面している自治体では、住民サービスの前例のない切り詰めを余儀なくされている。未来の「縮小ニッポン」の社会像を構想する契機として、人口減少を加速させた原因は何なのか考察していくことは、一人の主権者として大きな意義があると考えられる。

生徒は、小学校4年生次に、自分の在住する市の様子の移り変わりについて、少子高齢化と将来の市の発展との関連を学習してきている。アンケートによれば、日本の人口に関する特色について、「少子高齢化」を30名（83%）、「人口減少」を24名（66%）、また「人口分布に偏りがある」を21名（58%）が挙げており、日本全体や国内の不均衡な人口分布についての認識があることがわかった。また、日本の人口減少の理由については、「少子化」や「働き方の変化」などを挙げており、表面的には理解しているものの、地方の人口減少と都市圏の人口減少の二重構造など、個々の社会的事象を関連させて多面的・多角的に捉えられていないことがわかった。

そこで、指導に当たっては「なぜ日本の人口は減少しているのだろうか」という学習課題について、人口減少の理由を資料に基づいて、地域の共通点や差違、分布などに着目させ、多面的・多角的に考察させたい。特に、少子高齢化による人口減少（人口転換論によるもの）、都市一極集中による人口減少（人口変動の3要素によるもの）の二重構造に気付かせたい。その際、都市には多くの人口が流入するのに、なぜ少子化が進行するのかについても考察させていく。さらに、どの資料も人口減少や少子高齢化に深く関連があることを理解させた上で、根拠をもたせるためにどのような資料が必要なのか、主体的に考えさせたい。人口減少については、人口学者により様々な学説が存在することも事実であるが、人口減少の理由を考察することで、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養っていききたい。

(4) 研究に関する指導の工夫

【教科論 4-4) 社会的な見方・考え方の働きを可視化する工夫】

社会的な見方・考え方を働かせ、人口減少の理由について追究させるため、思考ボードを用いた活動を行わせる。

【教科論 4-6) 仮説を立てて情報収集させる指導の工夫】

人口減少社会にどのように対応していけばよいか、自分なりの仮説を立て、必要な資料を構想させる。

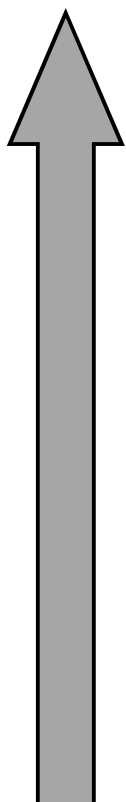
(5) 本時の展開 (8/16)

主な発問や指示	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
<p>〈問題把握〉</p> <p>○ 日本人口はどのように推移してきたのだろうか。</p>	5	<p>1 資料を見て、日本人口がどのように推移してきたのかを考察する。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p>	<p>1 資料から、日本全体及び各自治体で人口減少や高齢化が差し迫った課題であることを認識させる。</p> <p>2 人口減少の理由に関心をもたせながら、学習課題を設定する。</p>	<p>資料1</p> <p>日本人口の長期的推移など</p>
<p>なぜ日本の人口は減少しているのだろうか。</p>				
<p>〈本質究明〉</p> <p>○ なぜ日本人口は減少しているのだろうか、自分の考えを伝えよう。</p>	10	<p>3 自分の立てた仮説と複数の資料を基に、日本人口の減少の理由を考察し、表現する。</p>	<p>3 複数の資料を相互に関連付けさせて、グループ内で自分が考えた人口減少の理由を論理的に説明させる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>資料3</p> <p>東京圏・大阪圏への人口の移動など</p>
<p>↓</p>				
<p>【知識及び技能】</p> <p>日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料から「根拠」「論拠」を基にまとめ、その知識を身に付けている。</p>				
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>日本の人口減少の理由について、人口分布に関する資料を基に、地域の共通点や差違などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>				
<p>↑</p>				
<p>○ グループで日本人口の減少の理由を共有し、図式化してみよう。</p>	15	<p>4 グループで日本人口の減少の理由を共有し図式化する。</p>	<p>4 資料を基に、他者と協働して日本人口の減少の理由を考察させる。その際、地域の共通点や差異、分布に着目させるために思考ボードを用いる。</p>	<p>思考ボード(ベン図)</p>
<p>○ グループで考えた日本人口の減少の理由を発表しよう。</p>	10	<p>5 各グループで考察した理由を全体で発表する。</p>	<p>5 図式化した思考ボードを共有する中で、「都市圏(東京圏)は多くの人口が流入するにも関わらず、なぜ将来的に人口減少となるのか」を再度考察させる。</p>	<p>資料4</p> <p>東京都の人口予測</p>
<p>〈洞 察〉</p> <p>○ 日本の未来図である人口減少社会に、自分自身はどのように対応していけばよいのだろうか。</p>	10	<p>6 人口減少社会に、自分自身はどのように対応していけばよいかを考え、今後学んでいくために必要な資料を構想する。</p>	<p>6 図式化した人口減少の理由を基に、自分自身がどのように人口減少社会に対応していけばよいか構想させる。</p>	<p>ワークシート</p>

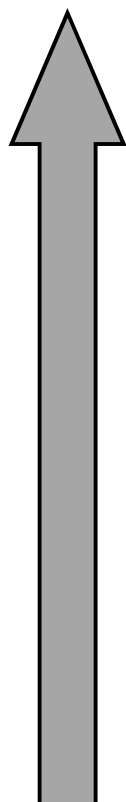
□ は評価場面, ○ は授業中における評価観点, (---) は授業後における評価観点

2年()組 番号() 氏名()

学習課題



《理由》



《理由》

資料番号	資料から読み取れること

資料番号	資料から読み取れること

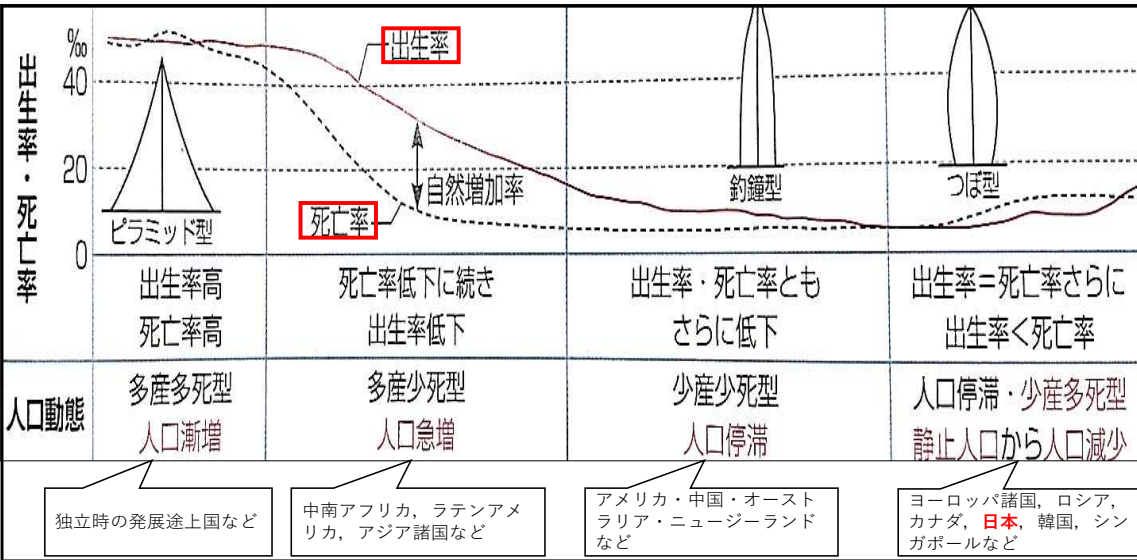
世界と日本の人口には、どのような特色があるのだろうか。

資料1 各国人口の将来予測

2017年(百万人)		2050年(百万人)	
① 中国	1,410	① インド	1,593
② インド	1,339	② 中国	1,392
③ アメリカ合衆国	324	③ アメリカ合衆国	395
④ インドネシア	264	④ パキスタン	305
⑤ ブラジル	209	⑤ インドネシア	285
⑥ パキスタン	197	⑥ ナイジェリア	258
⑦ ナイジェリア	191	⑦ ブラジル	253
⑧ バングラデシュ	165	⑧ バングラデシュ	243
⑨ ロシア	144	⑨ コンゴ民主共和国	177
⑩ メキシコ	129	⑩ エチオピア	170
⑪ 日本	127	⑪ メキシコ	139
⑫ エチオピア	105	⑫ フィリピン	127
⑬ フィリピン	105	⑬ ウガンダ	127
⑭ エジプト	98	⑭ エジプト	126
⑮ ベトナム	96	⑮ ベトナム	117
⑯ ドイツ	82	⑯ 日本	112
⑰ コンゴ民主共和国	81	⑰ ロシア	112
⑱ イラン	81	⑱ イラン	102
⑳ トルコ	81	⑳ トルコ	101
㉑ タイ	69	㉑ アフガニスタン	97

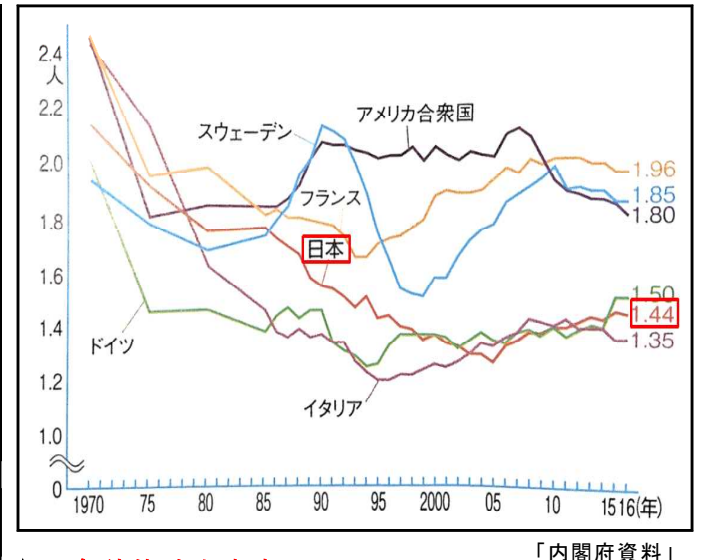
「世界人口白書」

資料2 出生率・死亡率と人口ピラミッドの関係



とうほう「新編 地理資料」

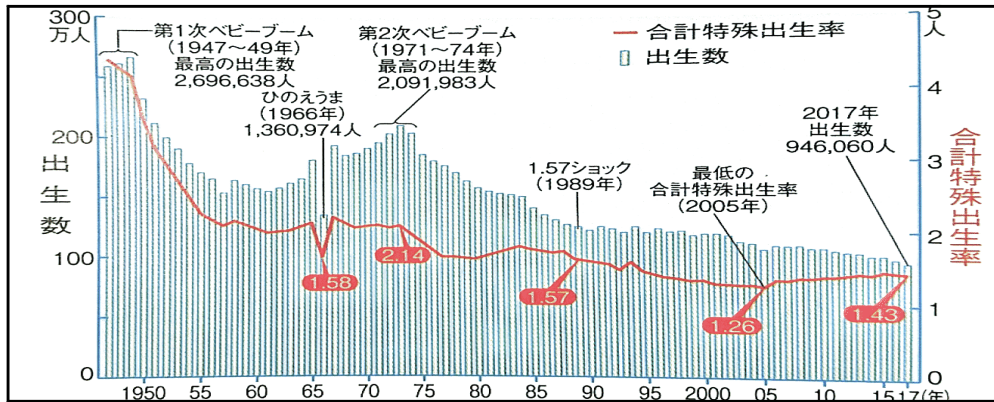
資料3 先進諸国の合計特殊出生率の推移



「内閣府資料」

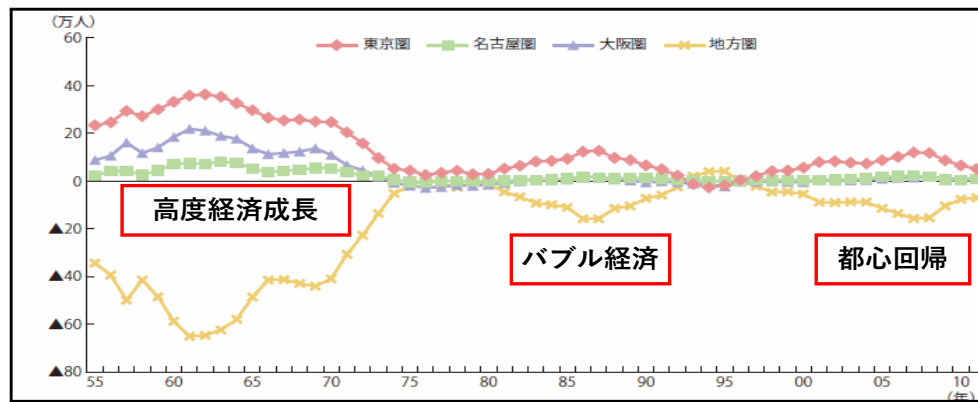
★ 合計特殊出生率
1人の女性が生涯に出産する子供の数。15～49歳の女性の各年齢での出産率を合計したもの。

資料4 日本の出生数と合計特殊出生率の推移



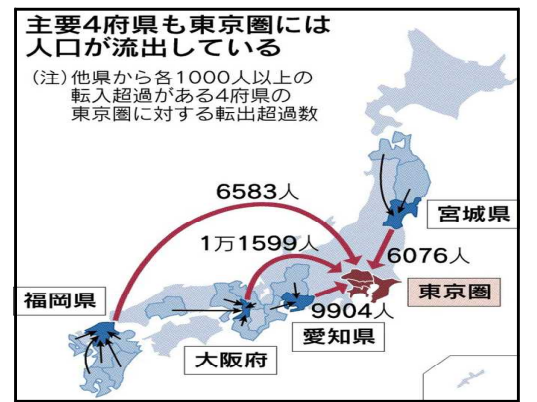
厚生労働省「平成29年度 人口動態統計の概況」

資料5 三大都市圏への人口移動



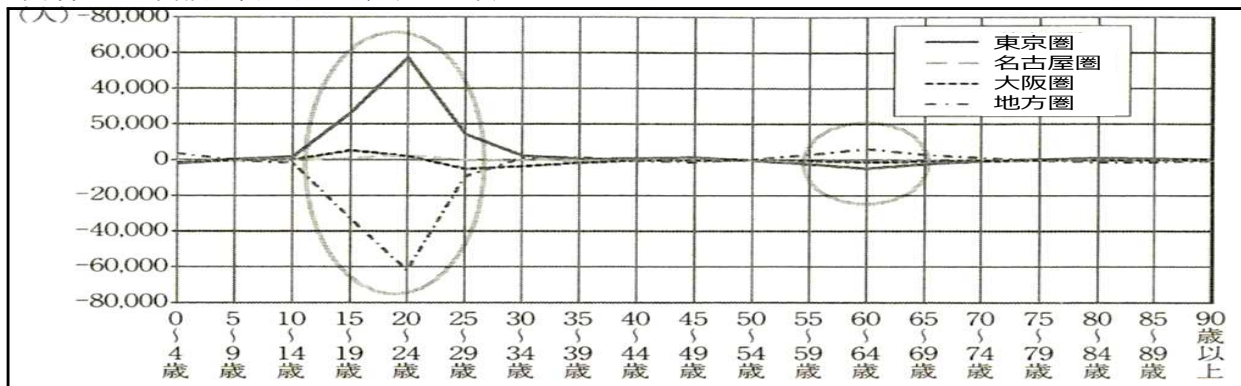
総務省「住民基本台帳人口移動報告」

資料6 主要4府県の人口移動



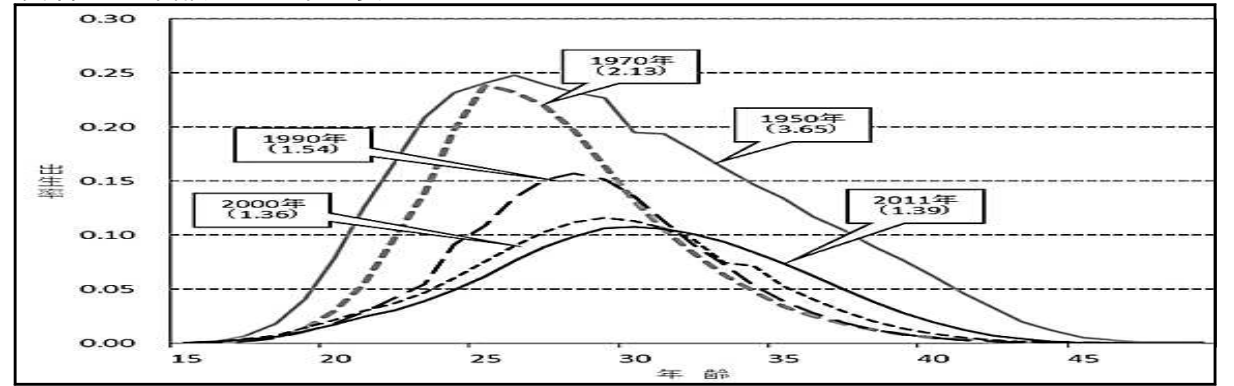
日本経済新聞 朝刊(2019. 2. 15)

資料7 年齢別転入超過数(2017年)



総務省「住民基本台帳人口移動報告」

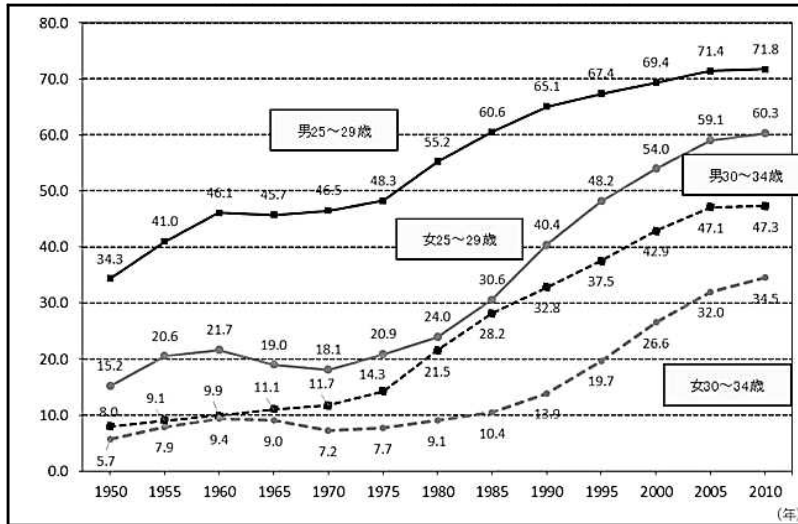
資料8 年齢別出生率の変化



内閣府「選択する未来」

なぜ日本の人口は減少しているのだろうか。

資料9 年齢別未婚率の推移



資料10 子育ての不安要素

選択肢	回答(%)
経済的にやっていけるか	63.9
仕事をしながら子育てができるか	51.1
子育てに自信がない	40.7

※ 内閣府による20代、30代の男女7000人を対象にした調査。上位3つを掲載。
中山徹「人口減少時代の自治体政策」

資料11 親と同・近・別居ごとの実際の子供数

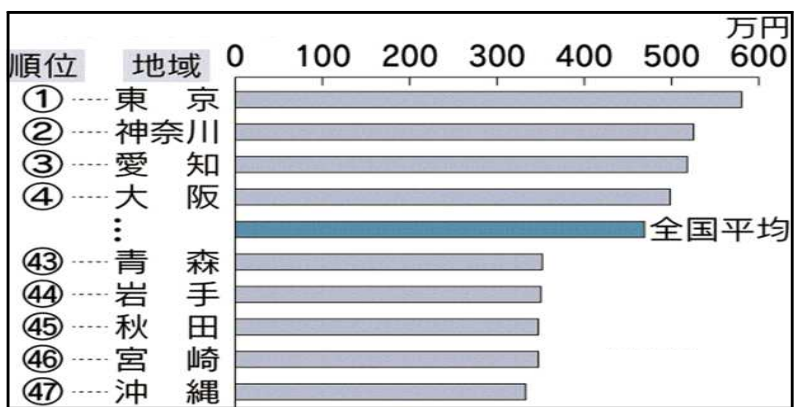
	1997年	2010年
親と同居	2.30	2.03
親と近居 (同じ市区町村内で別居)	2.25	1.99
親と別居 (違う市区町村,都道府県で別居)	2.09	1.83

国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査2016」 厚生労働省「平成29年度版 保育所等関連状況取りまとめ」

資料12 東京圏の待機児童数

都県名	待機児童数
東京都	8,586人
千葉県	1,787人
埼玉県	1,258人
神奈川県	756人
鹿児島県	354人

資料13 平均年収が多い地域と少ない地域 内閣府「選択する未来」



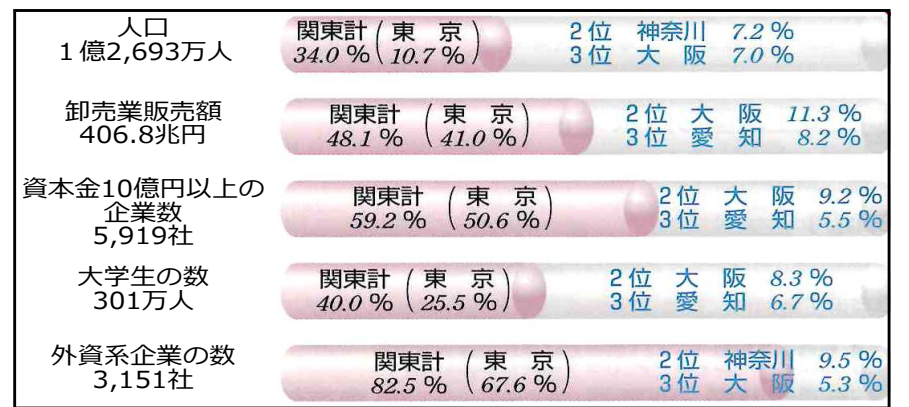
厚生労働省「平成29年度版 賃金構造基本統計調査」

資料14 都道府県別転入超過数と合計特殊出生率

都道府県	順位	転入超過数(2013年)	順位	合計特殊出生率(2013年)
東京	1	7万172人	47	1.13
神奈川	2	1万2,356人	43	1.31
埼玉	3	1万1,154人	40	1.33
愛知	4	7,891人	24	1.47
福岡	5	5,825人	28	1.45
宮城	6	4,656人	39	1.34
大阪	7	3,377人	42	1.32
千葉	8	2,442人	41	1.33
沖縄	9	31人	1	1.94
滋賀	10	-143人	17	1.53

寛祐介「人口減少×デザイン」

資料15 関東地方への集中度(全国に占める割合)



「経済センサス」など(2017年)

資料16 H28年度大学進学時における「県外からの流入数一県内からの流出数」

1	東京都	7万3,821人
2	京都府	1万7,921人
3	大阪府	6,318人
4	神奈川県	5,251人
5	愛知県	3,803人
36	鹿児島県	-2,445人
43	栃木県	-4,752人
44	三重県	-4,820人
45	長野県	-5,698人
46	茨城県	-7,558人
47	静岡県	-8,890人

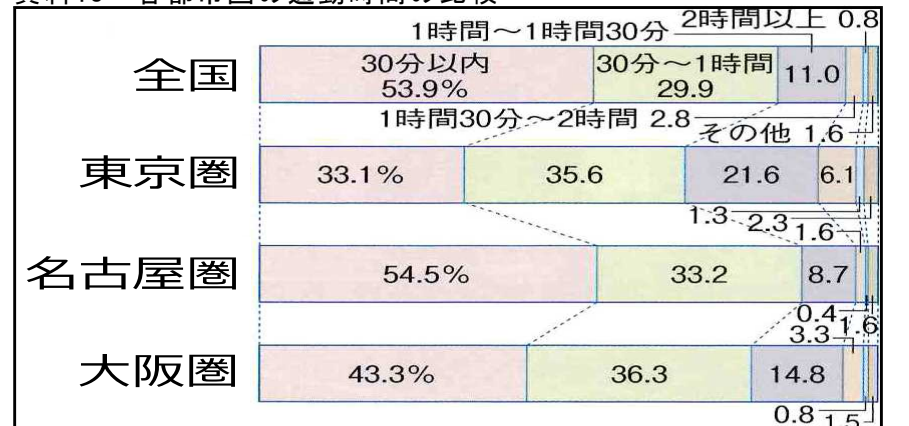
文部科学省「学校基本調査」

資料17 住宅地の平均価格(1㎡あたり)

1	東京都	34万2,600円
2	神奈川県	17万2,600円
3	大阪府	14万8,300円
4	埼玉県	11万4,000円
5	京都府	11万円
31	鹿児島県	2万7,300円
43	鳥取県	1万9,600円
44	山形県	1万9,400円
45	北海道	1万8,800円
46	青森県	1万6,300円
47	秋田県	1万3,500円

国土交通省「平成29年度版 都道府県地価調査」

資料18 各都市圏の通勤時間の比較



総務省「社会生活基本調査2016」